

本県のIT産業の特徴

<ITソフト産業>

- ITソフト産業が集積。
(人口当たりの売上高全国6位、事業所数全国4位、従業員数全国6位)
- 首都圏にビジネスが集中しており、大手IT企業からの受託開発業務が主な業務。
- 他の産業分野のサポーターインダストリー。

<ITハード産業>

- 競争力の高いITハード企業が存在。
(特定分野において、国内・国際的に高いシェアを誇る)

<コンテンツ産業>

- 印刷関連企業が集積。
(人口当たりの出荷額全国6位、事業所数全国9位、従業員数全国6位)
- 情報技術の発達により、映像・ゲーム・WEBコンテンツ制作会社などが増加。

<共通事業環境>

- 高等教育機関や大型情報実験施設等の高度情報インフラが集積。
- 全国と比較して災害が少なく、安価な電力が供給可能。
- 北陸新幹線の金沢開業をはじめとする陸・海・空の整備進展によるアジアや首都圏へのアクセス向上。
- 伝統文化や工芸等の地域資源が豊富。

今後10年を見据えたIT産業を取り巻く環境変化

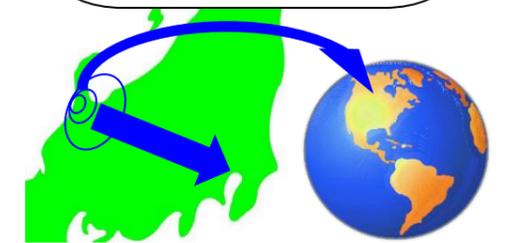
- 総人口の減少による国内市場停滞・縮小のおそれ
- 新興国市場の拡大
- 農業・介護分野などの市場規模の拡大
- スマートフォンやタブレット端末等の新技術の台頭
- 蓄積データ量の増加・ビッグデータ活用によるビジネス機会の増加
- 生産年齢人口の減少により人材確保競争の激化

県内企業の声(アンケート結果)

- 企業の成長のために重点的に取り組んでいること
 - ①新製品・新技術の開発
 - ②国内における販路開拓
 - ③人材の育成・確保
- 人材育成の課題
 - ①若手社員のモチベーション向上
 - ②プロジェクトマネージャーの育成
 - ③若手技術者の技能向上

IT産業戦略の柱と主な取組み

産業発展のイメージ



【目標】

技術革新の速いIT産業で、新製品の開発による首都圏への販路拡大や、農業等の新分野への参入により新規市場を開拓し、県内IT産業の持続的な発展を目指す。

1. 新製品開発・新分野開拓による新規需要の獲得

- ・国内市場の縮小や技術革新の速いIT産業で常に企業が成長し続けるために、技術トレンドや市場ニーズに反応し、新製品開発による新規需要の創出を図る。

■ 今後の主な取組み

- 新製品開発支援
- 新製品開発の意欲向上に資するブランド認定
- 新分野開拓に繋がるシーズとニーズのマッチング支援
- ビッグデータを活用したビジネス展開のための知識習得支援
- デザイン力を活かした付加価値の高い製品開発支援

2. 首都圏・海外市場等の販路開拓

- ・IT産業のビジネスの大半が首都圏に集中していることから、首都圏での新規販路開拓を図る。
- ・整備進展した陸・海・空の交通インフラを活用して、拡大する新興国市場の需要を獲得する。

■ 今後の主な取組み

- 開発した新製品の首都圏展示会への出展支援
- 顧客ニーズが集中するIT商社を活用した販路開拓支援
- 海外見本市への出展による販路開拓支援
- 現地に精通した専門家派遣による海外展開支援

3. ベンチャー企業等の創業・育成促進

- ・IT産業は創業時の初期投資等が小さくて済むことから、ベンチャー企業を増やして県内IT産業の活性化を図る。

■ 今後の主な取組み

- ベンチャー企業への創業から成長まで段階に応じた支援
- ニッチトップ企業のシェア拡大を目的とした展示会出展等の支援

4. 戦略的な企業誘致の推進

- ・安価な電力や高等教育機関の集積を強みとして、電力消費型企業の誘致・設備投資を進める。

■ 今後の主な取組み

- 電力多消費型企業等の誘致・設備投資

5. コンテンツ産業の活性化

- ・スマートフォンなどの普及により媒体の多様化が進む中、高い技術を有するコンテンツ企業が、豊かな地域資源や新幹線開業を活かして、訴求性に富んだ石川県の映像を制作し、県内コンテンツ産業の活性化を図る。

■ 今後の主な取組み

- 過去の書府作品を利活用しつつ、コンテンツ関連企業が本県をPRするための映像制作等を支援し、権利関係を明確化(石川新情報書府第5期)
- コンテンツビジネスに求められる企画力等を習得するための人材育成支援

6. 人材の総合的確保・育成

- ・SE等の高度専門人材やグローバル人材・若手人材の確保・育成を図る。

■ 今後の主な取組み

- 企業が求める高度専門人材の確保・育成支援
- 若手社員の海外での実地研修等によるグローバル人材の確保・育成支援
- インターンを活用した企業と学生のマッチング促進